



「プラス1点」にこだわる！

来週火曜日から、中間テストが始まります。今年度最初の定期テストであり、1年生にとっては、中学生になって初めての定期テストです。ゴールデンウィーク中は、計画どおり、確実に勉強しましたか？やり残した内容がある人は、残された時間の中で、工夫して解決してください。今年度から、定期テストの前日（今回なら13日（月））は、給食後に清掃・帰りの会をして下校することとしました。これもテスト勉強の時間を確保してもらうためですから、その意味を十分考えて、13日の午後をテスト勉強に有効活用してください。

ところで、私たちの社会の中には、さまざまなテスト（試験）があります。大きく分けると2種類です。1つは、ある一定の基準を満たしていれば、全員合格になるもの。運転免許証のような資格を得るための試験がこれに当たります。もう1つは、合格者の数が決まっていて、成績の良い順に選ばれるもの。多くの人が経験する高校入試などがこれに当たります。

どちらの種類の試験にも、共通していることがあります。それは「1点足りなくても不合格になる」ということです。資格試験の場合、仮に80点が合格ラインだとすると、それ以上の人は何人でも合格するでしょうが、79点の人は不合格になります。高校入試の場合、仮に定員が100人だとすると、101番目の人は、たった1点足りなくても不合格になります。（高校入試の場合の点数は、当日の学力検査の点数だけでなく、面接や調査書も含めた総合的な点数になります。）これって、かなりのプレッシャーです。特に、高校入試は「人生で最初の試練」と言われるように、毎年、どの学校の中学3年生も、このプレッシャーと戦います。

プレッシャーがかかる場面で、少しでも良い結果を出すためには、それまでにどれだけ経験を積んで実力を発揮できるようにしておくかということが重要です。大会やコンクールの前に、本番さながらの試合や練習を行うのは、そのためでしょう？勉強も同じです。そこで、皆さんに呼びかけたいのは、**「普段から、プラス1点にこだわれ！」**ということ。これだけ聞くと、点数至上主義のように聞こえるかもしれませんが、決してそうではありません。また、点数が学力のすべてだとは思っていません。しかし、点数で結果が決まることがあるのも事実です。ですから、「プラス1点」にこだわってほしいのです。

「プラス1点」と言っても、いろいろあります。「ライバルよりプラス1点」というものもありますが、「前回の自分のテストよりプラス1点」ということもあります。また、「一応できる問題は解いたけど、まだ時間があるから、あと1点増やせるように頑張ろう」という粘りも大切です。でも、重要な試験の時にだけ「プラス1点」を考えても、かえって緊張しますから、**「普段の試験から、プラス1点」にこだわって粘ることが必要です。また、そのための事前の準備が重要である**ということは、言うまでもありませんね。こういった積み重ねが習慣となり、プレッシャーがかかる場面でも実力を発揮できることにつながります。そして、自分自身の進路を切り拓くことにつながるのです。どうか今回の中間テストから、皆さんなりの「プラス1点」のためのこだわりや粘りを見せてください！



お詫びと訂正

前号で校外学習に触れた箇所、「坊ちゃん劇場」と表記しましたが、正しくは「坊っちゃん劇場」でした。訂正して、お詫びいたします。（ちなみに、夏目漱石の作品名も現代表記では「坊っちゃん」です。）